

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	概ね知識・技能の定着が図れているが、学年によっては、基礎的・基本的な知識の定着に課題が見られた。また、定着に個人差があるため、個別に必要な支援をしていく必要がある。知識・技能をより定着させるために、モジュールの時間を設定し、繰り返し学習をより充実させていく。 振り返りの中で、主語と述語を意識させる活動を継続していくことで、R7年全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の結果で改善状況を検証していく。 個別最適な学びの実現に向けて、直接的な指導とのバランスを見極めながらICTを活用していく。
思考・判断・表現	自分の考えを表現していくことについて、ある程度の改善はみられてきているが課題も残る。探求的な学びを充実するために、「課題の設定～まとめ・表現」のスパイラルを繰り返す学習過程を意識し、児童が根拠をもって学習に取り組めるようにする。また、他教科で学んだことを生かしていく力を育み、自分の考えを表現する機会を多く設定するために、教科横断的な視点を取り入れながら、学習過程を工夫していく。 引き続き、教師による「なぜ?どうして?」の意図的な発問を多く取り入れ、児童の思考力を高めていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】基礎的・基本的な知識の定着に課題が見られる。【指導上の課題】繰り返し学習による基礎的・基本的な知識・技能の習得を固める時間の確保。 【学習上の課題】自己の学習を調整したり、自身の課題を把握したりすることができていない。【指導上の課題】視点やめあてをもたせ、学びを振り返る時間の確保ができていない。	空いている時間【学習ソフト】やドリル等の繰り返し学習に取り組む。【隙間時間の活用】 何ができたのか、どうしてできたのかなど、児童が自らの学びを振り返ることができるようにする。【毎時間】児童自ら学習計画を立てる時間を設定する。【学年の実態や単元に応じ実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】問題をじっくりと読み、資料から情報を読み取ることに課題が見られる。【指導上の課題】意図的に思考力を高められるような発問をする機会が少ない。【学習上の課題】自分の考えを表現できる児童が少ない。【指導上の課題】わかる、できる喜びを味わえるような、児童主体の授業展開が少ない。	自分の考えを主体的に発表する機会を意図的に増やしていく。【毎時間】学校課題研修との関連を図りながら授業改善を図るとともに、自ら課題を設定し解決するなどの探求的な学びを充実させていく。【市学テ質問】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対して、肯定的な回答9割以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	ドリル等の繰り返し学習に取り組むことで、知識・技能の定着が図れている。また、意欲的に繰り返し学習に取り組めるようになってきている。 振り返りの視点を明確にしたことで、何を学んだのか、どんなことができるようになったのかを振り返ることができるようになってきている。振り返りを書かせる際には、主語と述語を意識することも徹底していきたい。 児童自らが学習計画を立てることに関しては、単元や学年の実態に応じて実施することができた。
思考・判断・表現	B	自分の考えを主体的に発表する機会(自分の考えを理由付けて伝えたり、説明したりする活動)を意図的に増やしたことで、自分の考えを表現することができるようになってきている。 学校課題研修との関連を図りながら授業改善を行い、自ら課題を設定し解決するなどの探求的な学びを充実させた。根拠をもって課題に取り組む児童が増えた。また、「わかった・できた」喜びを味わうことで自己肯定感の向上も見られた。市学テ質問「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対して、肯定的な回答の割合は9割を超えた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和5年度の自校の結果と比較すると国語5pt、算数同程度の結果であったが、概ね良好な結果であった。国語の主語と述語の関係を探る問題において課題が見られた。主語と述語を日頃から意識できず、文章を書いている児童が多いことが原因と考えられる。また、算数のデータの活用において理解が不十分な様子が見られた。資料やグラフの読み取りに苦手意識を抱えている児童が多くいる現状がわかる。データの活用を取り扱う際には、データをじっくりと分析し、読み取ったことを説明する活動を重視したい。
思考・判断・表現	令和5年度の自校の結果と比較すると国語4pt、算数4ptと昨年度を下回った。国語の「書くこと」の領域で課題が見られた。自分の思いや考えをうまく表現できない児童が一定数いることがわかる。算数の「変化と関係」の領域で、なぜそのような答えになったのか理由を問われる問題において課題が見られた。出た答えに対して理由付けができないことがわかる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」における肯定的な回答は88%であったが、今後の授業改善として、自分の考えを理由付けて伝えたり、説明したりする活動を重視していきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	市の平均と比較して、大きく下回る学年・教科は見られなかった。概ね知識・技能の定着が図れている。繰り返し学習や振り返り活動を充実させたことの結果が表れている。今後も繰り返しや振り返りを充実させていく。普段の取組ではできていても、問題が変わるとできなくなってしまう傾向が見られた。学んだことをつなげて生かせるよう、系統性を重視し既習事項を確認したり、生活につなげて伝えさせたりする活動を充実していく必要がある。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」の領域において課題が見られた。前後の文脈から登場人物の相互関係や心情に着目させたり、複数の情報を関係付けるために必要な情報を見つけたりするなど、読み方の指導を充実させたい。算数「変化と関係」の領域において、全学年市の平均を下回ったため課題が見られる。文章問題が出題された際は、言葉の式・図を用いて、立式の根拠を明確にさせたい。図を用いて考えさせるときは、必要に応じて数直線のかき方・活用の仕方を丁寧に指導し、図を用いるの便利さを児童に実感させたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	隙間時間にドリルやドリルの繰り返し学習に取り組む、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。 毎時間の振り返りの時間を確保しているが、取り組めないこともあった。 児童自ら学習計画を立てる授業展開については、まだ未実施であることが多く、単元や実態に応じて個別に学習計画を立てられるよう一連の流れを確立していきたい。	変更なし
思考・判断・表現	B	日々の授業の中で、児童が主体的に発表する機会を意図的に設けている。 自ら課題を設定し、解決するなどの探求的な学びの充実に向けて、授業改善を進めている。単元や学年の実態に応じてさらなる充実を目指していく。	自分の考えを主体的に発表する機会(自分の考えを理由付けて伝えたり、説明したりする活動)を意図的に増やしていく。【毎時間】学校課題研修との関連を図りながら授業改善を図るとともに、自ら課題を設定し解決するなどの探求的な学びを充実させていく。【市学テ質問】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対して、肯定的な回答9割以上】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)